会　　議　　録

1　会議名称	令和８年度まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
2　日　　時	令和８年８月２６日（水）午後２時００分から
3　場　　所	生涯学習センターさくらドーム２１　２階　視聴覚室
4　出席委員	松田委員、白川委員、萩原委員、宮城委員、丸一委員、河合委員、濱野委員 宇野委員、吉井委員、深井委員、新井委員 （欠席）新濃委員、津田委員、坂本委員、山本委員
5　事務局	坂井総務課長、宮本財政課長、長谷川商工観光課長、河端税務住民課長、 藤井危機管理監兼環境安全課長、杉谷農林水産課長、大橋地域整備課担当課長、 田中健康福祉課長、寺崎健康づくり推進室長、浜坂子育て応援室長、 秋田学校教育課長、松島学校教育課担当課長、松浦生涯学習課長、 南谷企画情報課長、定免課長補佐、瀧平課長補佐、守田主幹
6　議　　題	1　開　　会 2　町長あいさつ 3　会長選出 4　議　　題 （1）令和７年度の事業評価について （2）その他 5　閉　　会
7　議　　事	
	1　開　　会
	・定刻どおり開会。 ・欠席委員の報告及び委嘱状の交付（席上への配付による）。
	2　町長あいさつ
（町　長）	本日は、お忙しいところご出席いただき、ありがとうございます。 公私ともにそれぞれご多忙の中で、本会議の委員をお引き受けいただき、深く感謝申し上げます。 さて、本町の人口の方は、昭和 60 年をピークに、現在１万 1,000 人ということでありまして、地方創生の取り組みにおいても、能登地域全体で言えることですが、この人口減少と高齢化の波は続いているというところであります。 そうした中、令和 6 年度末に策定した第 3 期総合戦略で、委員の皆様から頂戴したご意見を踏まえ、例えば人口減少の抑制であるとか、地域課題の解決に向けて、様々な施策をお聞きし、可能なものは施策にも盛り込んで取り組みを進めてきたところであります。 本日は、その計画初年度にあたる令和７年度の成果、進捗状況について、ご評価いただくとともに、委員の皆様から幅広いご意見ご提言を賜り、今後の施策の見直しや展開に反映させてまいりたいと考えております。 本日は短い時間ではございますが、忌憚のないご意見を賜りまして、少しで

	もこの会議が有意義なものになりますことをお願い申し上げ、私の挨拶といたします。よろしくお願いいたします。 3　会長選出 ・会長に「宇野委員」を選出。 ・会長職務代理に「松田委員」を指名。 4　議題 (1) 令和 7 年度の事業評価について ① 施策 3-2　生活基盤の充実 ・資料に基づき事務局より説明。 ・主な質疑、意見等は以下のとおり。
（委　員）	「民間賃貸住宅建設補助はニーズが小さいため廃止してはどうか」との意見があるが、どのように考えているか。
（事務局）	まったく民間事業者から話が無いわけではなくニーズはあると思っています。 現時点では、能登半島地震からの復旧復興工事が集中していることもあり、なかなか資材の確保も難しいということで建設まで至っていないと思われますが、ニーズ自体はあると思うため、この制度は続けていきたいと考えています。
（委　員）	移住定住などもあると思うが、実際、住んだ人が今現在どれくらいいて、何年間住んでいるというようなデータはあるか。
（事務局）	社会増減数は把握をしていますが、特定の人が個別に何年間住んでいるといった理由の把握は難しいと思っております。 学生の転出など、局所的な要因は把握していますが、個人レベルで実態と原因を把握していくことは難しいと考えています。 ただし、少しでも人口減少を食い止めるためには、様々なニーズを把握した上で、取り組んでいくことが必要だと考えております。
（委　員）	「中間管理住宅」について、住める空き家を増やしていくということだが、家財道具などの撤去についても町が公費で行うのでしょうか。
（事務局）	家財道具などが残ったままでは使えないため、そこに対する支援は既に行っています。 ただし、空き家バンクに登録しても、なかなか利用者が見つからないこと、改修などに費用や手間がかかるといった課題があるため、国庫補助金などを活用しながら、町がリフォームして、安く提供できるようにするのが中間管理住宅の取り組みです。

	空き家を貸す側としても、固定資産税相当額で町が借りることで維持費が軽減されるほか、町が代わりにリフォームするため資産価値が上がることになります。ただし、そこを含めて 13 年間の決まった期間で借りることとしています。 ・事務局からの説明及び質疑等を踏まえ「施策 3-2　生活基盤の充実」に対する評価を採決した結果、評価は「○：一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ている」に決議された。 ② 施策 1-1　切れ目のない子育てサポート ・資料に基づき事務局より説明。 ・主な質疑、意見等は以下のとおり。
（委　員）	いつも疑問に思っているが、「切れ目がない子育て」とは、乳幼児から小学校までで、高校生などの子育ては考えていないような気がする。そこは別の施策になるのか。
（事務局）	高校生に対してはまだ不十分だと思いますが、今年度から通学定期券の補助を行っております。また要望等があれば支援していきたいと考えております。
（委　員）	産後うつの割合が増えているが、全国的にこのような傾向なのか、宝達志水町としての特徴としてなのか、どのように分析しているか。
（事務局）	全国的にどのような傾向か把握しておりません。過去 2～3 年を見ると、本町の実人数は 2～3 人であるため、町としては少ないと理解しておりますが、全国的な状況も調べた上で、解決策を探っていきたいと考えております。
（委　員）	産後うつに対する具体的な対策がなければ、子育ての色んなことに関わってくるのではないか。
（委　員）	私も、産後うつのことが気になっている。「すこやか子育て相談」の心理士と保健師による個別相談では、令和 6 年度 13 人に対して令和 7 年度 6 人であり、しかも延べ人数とあります。実人数は何人だったのか。 また、そのような子育て相談が、産後うつの予防や相談体制の強化になってくるため、人数を増やしていく必要があると思うが、相談を増やすための周知はどのように取り組まれているか。
（事務局）	うつ病と断定しない、うつ傾向の方であり、令和 5 年度・令和 6 年度は 2 人ずつ、令和 7 年度は 3 人と把握しております。実際に悩んでいる方がいますので、保健師や心理士により、寄り添いながらサポートしております。

（委　員）	対象は「うつ」になっている方という理解でよろしいでしょうか。
（事務局）	うつ病と確定した方ではなく、色々な質問項目で状況を把握した上で、うつ傾向にある方としております。 ・事務局からの説明及び質疑等を踏まえ「施策 1-1　切れ目のない子育てサポート」に対する評価を採決した結果、評価は「○：一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ている」に決議された。 <u>③ 施策 2-1　企業誘致や新たな雇用創出への支援</u> ・資料に基づき事務局より説明。 ・主な質疑、意見等は以下のとおり。
（委　員）	創業塾を受けられた方で、実際に起業者数の 20 人につながったという方はどの程度いるか、また、それ以外の方はどのように起業されたのか。
（事務局）	創業塾を受講された方は、ほぼ本町の事業者につながっていると思います。 現在、市町単位で創業塾を実施しており、受講した市町の認定が必要になってきますので、どうしてもその自治体になってきますが、新たに広域連携の取組として、今年から七尾の商工会と連携しておりますので、今後は少し緩和され、他市町で受講しても起業創業の認定を受けられる状況になると思います。
（委　員）	企業用地の整備に関して、相手方に合わせた整備が必要であるとの一方で、令和 7 年度の取組内容では「整備方針は定まっていない」とあり、さらに令和 11 年度の KPI では、「企業用地の整備」として 10,000 ㎡と設定されているが、どのように考えているか。
（事務局）	用地については、用途によって整備の方針が変わってくると考えており、相手方が決定した段階で、より良い整備を実施したいと考えております。
（委　員）	町が行っている創業補助を活用しようとしたが、自分の事業に合わない、ルールとして少し使いづらさがあった。事業者の規模や事業内容によって、いくつかの補助パターンを考えることはできないか。
（事務局）	現在の企業創業等支援補助金については、起業創業、第二創業、事業承継などを対象とし、県内自治体の例にも合わせて行っておりますが、加算額は、町外からの転入で 25 万円、従業員の雇用で 25 万円、地域資源の活用で 25 万円と、基本額と合わせて最大 175 万円となり、金額的には他自治体より充実していると思っております。

	事業者により該当しない場合もあるかと思いますが、内容を緩和しすぎるとその後の手続きが困難になることも考えられるため、今の内容で取り組んでいきたいと思っております。
（委　員）	よく企業誘致のことが挙げられるが、むしろ企業誘致よりも、地場産業の育成にもっと力を注いでもいいのではと思う。
	・事務局からの説明及び質疑等を踏まえ「施策 2-1　企業誘致や新たな雇用創出への支援」に対する評価を採決した結果、評価は「△：一定の成果を得ているが、改善が必要である」に決議された。
	④ 施策 3-3　スポーツ交流の推進 ・資料に基づき事務局より説明。主要事業は、廃止された「宝浪漫マラソン」に関するものであるため、第 3 期総合戦略からの取り下げを提示。 ・主な質疑、意見等は以下のとおり。
（委　員）	宝浪漫マラソンに関して、町長はどのような意見か。
（事務局）	ボランティアスタッフの皆さんのご尽力がなければできない事業ですが、この人口規模で、ボランティアの確保に大変苦労している状況でした。 そうしたことから、町長の方針としては「実施できないのは仕方ない、無理しなくていい」という方針です。
（委　員）	過去に宝浪漫マラソンを開催していた際、町内に宿泊した方がどこから来ていたかというデータ取っているか。
（事務局）	宿泊者については、町内に宿泊場所がないため、一部では会館などを活用されたということでしたが、具体的に人数までは把握しておりません。
（委　員）	意見には「能登で一番高い宝達山を利用したスポーツイベント（自転車など）」とある。宝達山に行く際、自転車やトレイルランをされている方とも交流があり、「昔あったよね」や「あのとき走ったんだよ」という人も、未だに山頂へ来ている。宝達山を利用したスポーツイベントは可能性があるのではないかと思う。
（事務局）	過去、県自転車連盟と連携し、宝達山で自転車競技の大会を開催していましたが、コロナ禍やスタッフの関係があり、継続できなかったと聞いております。
（委　員）	宿泊者について、別の自治体では宿泊場所がないので、隣の市と連携し、宿泊はそこでしてもらい、イベントは自分の町でといった広域的な取り組みも検討し

	ていかなければイベントはできないという話があった。
（委　員）	資料には、今後の展開として「新たなスポーツイベントを継続的に実施していくため関係団体等との合意形成を図る」とあるが、今の自転車の話で、関係団体等との話し合いなど、今後のスポーツイベントとして興味があるのか。
（事務局）	特にございません。 私は、過去の自転車競技大会を担当していましたが、自転車連盟と一緒に汗をかいて、地域を盛り上げるために実施していたことを記憶しております。 ただし、コロナ禍で団体も集まらなくなったため、頓挫したという経緯がございますので、その辺りも踏まえた上で、今後検討していきたいと思います。
（委　員）	スポーツイベントの講演を最近聞いたことがあり、参加人数を評価として追い求めると苦しい面があり、例えば競技力の向上、競技人口・競技種目の維持拡大、生涯スポーツの推進といった、その先にある目標があると、イベント内容も生み出しやすいという話であった。 人数ばかりに捉われるのではなく、その先にある目標も含めてイベント内容を決めていけばいいのではないかと思う。
（委　員）	事業の見直しは必要だと思う。 施策では「スポーツイベントを通じた交流人口の拡大を図る」と掲げているが、意見の中では、「町内の親睦を含めたイベント企画」や「スポーツ振興による世代間交流や健康増進」などがある。 そうしたところにフォーカスを移せば、イベントとして何かあるのではないかということだが、町としては、あくまで「スポーツイベントを通じた交流人口の拡大を図る」ということで、今後検討していくという理解でよいか。
（事務局）	考え方としては、そのとおりでございます。 具体的にどういったものがいいのかというのはこれからですが、小さなことからでも構わないので、スポーツイベントを実施できたらと思っております。
（委　員）	先ほどもあったが、他自治体とも連携するといったような時代に入ってきているのかもしれない。奥能登国際芸術祭も珠洲市だけで開催していたが、2029 年度からは、七尾市以北で広域的に開催するということもそうしたきっかけになるのではないかと思う。
	・事務局からの説明及び質疑等を踏まえ「施策 3-3　スポーツ交流の推進」に対する評価を採決した結果、評価は「×：成果が乏しく、抜本的な見直しが必要である」に決議された。

	⑤ 施策 4-2　地域コミュニティの充実 ・資料に基づき事務局より説明。 ・主な質疑、意見等は以下のとおり。
（委　員）	防災士 222 人の男女比率はどうなっているか。例えば、避難所での悩みや相談事の 7 割から 8 割が女性からであり、女性防災士が必要だと言われているが、宝達志水町の実情はどうか。
（事務局）	女性の比率は 3 割から 2 割程度だと思っております。 なお、昨年度、新たに増えた防災士の半数近くが女性となっております。 また、昨年度、女性防災士部会を作っており、町としても、女性防災士を増やしていきたいと考えております。
	・事務局からの説明及び質疑等を踏まえ「施策 4-2　地域コミュニティの充実」に対する評価を採決した結果、評価は「○：一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ている」に決議された。 ・その他 13 施策については、事前に提出された外部評価のうち、最も多数となった評価を推進会議の外部評価として取り扱うことを確認した。 ・評価結果の一覧は別紙のとおり。
	⑥ その他の意見等
（委　員）	人口減少というのは、東京を除けば日本中どこの自治体でも起きており、これをどうしていくかということを、本推進会議の中で議論していただきたいという思いで、町長は挨拶で人口問題の話をされたと思う。 やはり、人が安心して、住みやすいまちであって、子供も子育てもしやすい、宅地・住宅があってそこに住める、最終的にはそこで仕事をして生活費が稼げるという町であることが重要だと思う。 色々な施策や補助金があって来られるというのも他市町村では聞くが、トータル的な魅力があって初めて人口減少を抑制できる。 全てがそこにつながると思うので、防災、教育、宅地造成、企業誘致もあると思うが、その辺りを連携して、ぜひ良い町にしていただきたい。
	5　閉会
8　資　　料	資料 1　第 3 期宝達志水町創生総合戦略 資料 2　令和 7 年度実施状況報告書 資料 3　令和 7 年度事前評価集計表 資料 4　第 3 期宝達志水町創生総合戦略体系図

（別紙）

第３期宝達志水町創生総合戦略に係る令和７年度事業評価

基本目標	施策	評価
1 結婚・出産・子育ての希望を叶える	1-1　切れ目のない子育てサポート	○
	1-2　ライフステージに応じた経済支援	○
	1-3　主体的に学ぶ教育の推進	◎
	1-4　豊かな人間性を育む学びの推進	○
2 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする	2-1　企業誘致や新たな雇用創出への支援	△
	2-2　ふるさと納税の推進	◎
	2-3　地域の特色を生かした農業振興	○
3 本町とのつながりを築き、新しいひとの流れをつくる	3-1　移住・定住の促進	○
	3-2　生活基盤の充実	○
	3-3　スポーツ交流の推進	×
	3-4　ふるさと観光の振興	○
4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる	4-1　災害に強いまちづくり	○
	4-2　地域コミュニティの充実	○
	4-3　高齢者が安心して暮らせる環境の整備	○
	4-4　健康づくりの推進	○
	4-5　循環型まちづくりの推進	○
5 デジタルの力で誰もが便利で快適に暮らせるまちをつくる	5-1　情報発信力の強化	○
	5-2　地域社会のデジタル化の推進	○

（評価基準）

◎：的確に取組が実施され、十分な成果を得ている

○：一部課題はあるが、概ね良好な成果を得ている

△：一定の成果を得ているが、改善が必要である

×：成果が乏しく、抜本的な見直しが必要である